新善光寺 寺報 北 縁
2020年10月 Vol. 44

ほくえん

仏教講座「写経」の様子

十夜法要は
僧侶のみでお参りします

11 月 3 日（火・祝）の十夜法要は、新型コロナウイルス感染症予防の観点から新善光寺僧侶のみでおこないます。誠に申し訳ございませんが、お参りはお控えくださいますようお願い申し上げます。

例年通り、法要では塔婆供養をおこないますので、ご供養を希望される方は同封の郵便振替用紙をご利用ください。

十夜法要とは

浄土宗の最も大切な経典の一つ「無量寿経」の中に、

「此に於て善を修すること十日十夜すれば、
他方の諸仏国土にして善をなすこと千歳するに勝れたり」

（現代語訳：この世界で十日十夜の間、善行を修めることは、その功徳は他の仏の世界で千年にわたって善行を励む功徳よりも優れている。）

とあることに基づく法要です。

〈ライブ配信〉

YouTube「新善光寺チャンネル」にて
法要をライブ配信する予定です。

11 月 3 日（火・祝）午後 1 時より

新善光寺　youtube で検索ください。

前号でもお知らせしました通り、新型コロナウイルス感染症により定例法要の形態を変更したり、一部再開した催しもありますが、行事を中止せざるを得ない状況が3月より続いております。

月参りやご法事など様々なお参りを、残念ながら見送られているお宅もあるかと思います。事前にご連絡いただければ、朝のおつとめや納骨壇の前で、こちらでご供養させていただくことも可能です。

ウィズコロナ時代という言葉もある通り、新善光寺ではお彼岸やお盆法要をYouTubeでライブ配信したり、Zoomなどでのオンラインの法要中継もできるようにネット環境を整えております。

皆さんと共に、それぞれに合ったお参りというものを考えていきたいと思っております。どうぞ、なんなりとおっしゃっていただければと思います。

お問い合わせは、電話やホームページのお問い合わせフォームからも受け付けております。

お盆と秋彼岸法要の様子です

〈仏教講座再開しました〉

3月より中止していました仏教講座ですが、8月より再開しました。

椅子の間隔をあけたり、換気をこまめにおこなったり、写経後の歓談タイムをなくすなどの対策をおこなっております。

また、ご自宅でも写経できるよう、ホームページから写経用紙をダウンロードできるようにもしております。郵送希望の方にはお送りしますので、ご連絡いただきますようお願い申し上げます。（アンケートはがきにご記入いただいてもかまいません）

第50回仏教講座
「写経～無量寿経四十八願文 part.2」
10月24日（土）　14時開始

事前予約・道具は不要、参加費は500円で
タチバナ僧侶の厳選スイーツ付きです。
お子様向けの用紙も用意しております。

※12月31日の除夜の鐘は今のところおこなう予定です。

ズッコケ尼さんの仏教こぼれ話㉕

〈コロナ禍ゆえに家族に感謝〉

駒木根　琴生

終息が見えないコロナ禍の状況下、肺炎持病のある私は自粛生活を続けて久しい。

そんな中、8月18日、母とも慕っていた八重子さんが亡くなった。7月26日に103才になったばかりだ。ご縁の始まりは八重子さんの娘が私の親友だった。彼女は平成12年全身に癌が広がり、59才の生涯を終えた。

八重子さんの母としての看病は必至という以外に言いようがなかった。しっかり者の八重子さんは2人の孫の世話役に変身した。和服姿が多かったが、腕まくりの洋服姿に変わった。

2人の成長の兆しが見えだした頃、結婚したばかりの孫の長男の死という悲報。私も飛んで行った。がっくり肩を落とし、老いの背に八重子さんのショックの大きさを感じた。その後、現在まで次男の孫との22年の生活だ。幸い、お寺のススキノから山の手の我が家に帰る途中だったので、八重子さんに会い続けた。ここ数年は、足が不自由で玄関迄も大変になり、その上、耳も遠く会話も進まなかった。

立ち寄りは遠慮して、ハガキ通信を心掛けた。当日、孫さんより「廊下で倒れて息を引き取った」との一報に斎場へ向かった。頬を触ると冷たかったが口紅を差し、上品な顔立ちだ。

「駒木根さん、僕は祖母をほんとうに好きでした。だから楽しく続けられました」との彼の弁に、二人だけに通ずる家族の愛の原点を聞かせて頂いた。今頃はお浄土でご主人・娘さんたちが「お疲れ様でした」と迎え入れていると確信させていただいた。同一蓮の約束だ。

時代の変化に伴い、家族構成は激変した。八重子さんも5人兄弟の長女として生まれ、土木業経営の妻となり、3人の母となり、6人の祖母となった。賑やかな家族の中で、幸せな歳月を歩んだに違いない。

私の周りにもご主人に先立たれ、独り住まいの方が増えた。年を重ねて、気遣いし合う家族がいない心の寂しさの上に、体力・記憶力も衰え、失うことが多く不安は計り知れない。私も携帯電話を失くし冷凍庫の中から見つかるという、ひどい失態があった。仏教的には「諸行無常。全ての変化を受け入れる境地」である。

先日、中島みゆきの名曲「糸」に着想を得た映画を観た。歌詞「縦の糸はあなた、横の糸は私、逢うべき糸に出逢えることを人は仕合わせと呼びます」の通り、糸を人に見立てて出逢いの奇跡と絆が表現されていた。八重子さんとも逢うべき糸に依ると思った。ロケ地の美瑛の丘の美しさを抱きつつ、外へ出た。

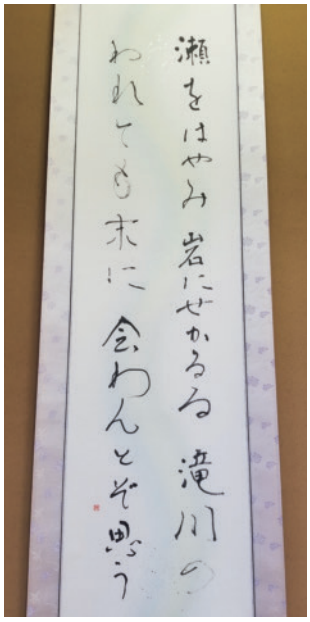
その夜、お嫁さんの誕生日会のお誘いの電話があった。家族の存在に改めて感謝した。

ひとり来て　独り去ぬ世や　秋の風

崇徳院に思う

好きな和歌をひとつ挙げるとすれば、まっさきに頭に浮かぶのは崇徳院の御製である「**瀬をはやみ　岩にせかるる　滝川の　われてもすえに　会わんとぞ思う**」です。法然上人（1133～1212）の伝記である『四十八巻伝』に「崇徳院の御宇、長承二年四月七日午の正中に、秦氏なやむ事なくして男子をうむ」とありますから、崇徳院は法然上人と同時代の方です。日本の大怨霊とされる崇徳院ですが、おいくつの時に詠まれたものか知りえないながら、このお歌には微塵も恨みつらみなどのまがまがしい情念は感じられません。むしろ、朗らかで清々しいお人柄がにじみ出ているように思います。また、「われてもすえに会わん」というのは、この世のことだけでなく、命が終わった後の世界のことも含めた再会であるように聞こえます。現世ではさまざまな事情があり別れてしまったけれども、来世は真実の世界（お浄土）で会いまみえたいという心だと受け取っています。誰しも忘れられない出会いがあります。その大切な人との別れが訪れようとも、お浄土での再会を心待ちに、我がいのちあるまで、清々しく朗らかに生きてゆきたいものです。

さて、人々に祟りをなすとされた崇徳院を案じて、院の死後およそ140年後に一人の女性が讃岐（現在の香川県）の崇徳院の御陵をお参りしています。その女性は、かつて宮中に仕えていた久我雅忠の娘・二条です。彼女は『とはずがたり』という文学作品を残しています。人から問われるような一生ではないけれども…という趣きで自叙伝のように彼女の人生のよろこびと悲しみが重層的に描かれた作品です。御所を退き、出家の身となった彼女は、皇室ゆかりの神社仏閣を訪ねる遍歴の旅にでます。その中で、崇徳院の眠る讃岐の御跡に詣でたのです。そこで彼女はこう語ります。「崇徳院が人々から疎まれ、たとえ怨念の暗闇にお沈みになっても、仏さまの御力でどうして心穏やかならぬことがあろうと、頼もしく感じました。」（取意）彼女の信仰とともに、仏法のあたたかさや偉大さをしみじみと味わうことのできる名文です。



さらに時は流れ、世の中が大きく変化した明治になってからも、崇徳院は祟り神として畏れられます。明治天皇が讃岐の崇徳院御陵に勅使をつかわし、院の御霊を京都にお還りいただくかたちで、京都今出川堀川東入ル飛鳥井町に白峰神宮が創建されます。

人々に災いをなし世を呪う大怨霊に、なぜ崇徳院はなってしまったのでしょうか。これは崇徳院だけに限らず、怨霊の正体とは、怨霊と呼ばれる人を貶めた人々のうしろめたさなのです。自分の立場や地位・権力を守るため、疎んじたり、軽しめたりして蹴落とした側の人々の妄念が怨霊を生み出すのです。決して、怨霊と呼ばれる人の心の情態が怨霊の正体ではないということです。

いつの日か、私も『とはずがたり』の作者のように崇徳院の御陵にお参りしたいと思っています。その時、院はどのような言の葉をかけてくださるでしょうか…。〈文：立花 俊輔〉

シリーズ 仏事のおはなし

年中行事のはなし ❹

早いもので今年も三分の二が過ぎ、北海道では短い秋から長い冬に向かう季節になってきました。前号で新型コロナウイルス感染拡大が収束することをお祈りすると記載しましたが、残念ながら未だに収束も見えてきません。お寺の行事も「新しい様式」を意識しつつ行っているところですが、一日もはやく以前の様に檀信徒の皆様と満堂溢れる法要を勤めたいものです。

さて、今回は「4月」の行事についてお話していきましょう。ご紹介するのは「宗祖降誕会」「灌仏会」「御忌会」の三つの行事です。

・宗祖降誕会

我々の宗祖さまは、言わずもがな「法然上人」です。「降誕」という言葉は、「神仏、聖人が生まれる」という意味の言葉で、一般的には「こうたん」と読みますが、我が宗では「ごうたん」と発音します。宗祖降誕会は、法然上人への「報恩謝徳」、つまり法然さまよりいただいた「ご恩に感謝し、そのご恩に報いようとする」という意義の法会です。

浄土宗徒にとって、法然上人のご生誕はとても大切な意味があります。我々浄土宗徒が「お念仏のみ教え」にご縁を頂戴したのは、上人が立教開宗されたことに起因します。もっと言えば法然上人がご生誕されたからこそ、お念仏のみ教えに出会えたともいえるでしょう。そういった意味で、法然上人のご生誕に感謝をする法会がこの「降誕会」という行事です。

・灌仏会

灌仏会はお釈迦様のお誕生をお祝いする法会で、明治後期には「はなまつり（花祭り）」と言うようになりました。花祭りの語源は、お釈迦さま誕生地が「ルンビニの花園」であったためとされています。現在ではお寺で行う厳かな儀式は「灌仏会」と称して勤め、イベント的に「お釈迦様お誕生のお祝い」という行事を「はなまつり」とすることが多いようです。

お釈迦様のお誕生日は4月8日ですので、従来旧暦の4月8日に勤めていたことを受け、今では現在の暦の4月8日に行われることが一般的です。札幌圏では、4月8日はまだ寒い時期ということもあり、ひと月遅れの5月に日を定めて行う寺院が多いようです。

法要では「誕生仏」と呼ばれる仏像を祀り、その誕生仏に甘茶を灌いでお釈迦さまのご遺徳を讃える儀式を行います。また、誕生仏は「花御堂」と呼ばれる花

を飾ったお堂に奉じられます。

なぜ甘茶を誕生仏へ灌ぐかというと、これはお釈迦様がご生誕された際「天に龍が現れ、甘露の雨を降らせた」という伝説によるとされています。

・御忌会

北縁第42号では「法然上人御忌」という表記で行事のご紹介をいたしましたが、それと同義で、御忌会は法然上人のご命日の法要です（内容が重複しますので、詳しくはバックナンバーを参照ください）。

法然上人のご命日は1月25日ですが、総本山 知恩院（京都市）、大本山 増上寺（東京都港区）をはじめ全国で多くの寺院が季節のよい四月などに大法要として勤めることが一般となっています。

今回4月の行事として再度ご紹介するにあたり、浄土宗を代表する総本山 知恩院と大本山 増上寺の御忌会がどのように行われているかをお話したいと思います。

総本山 知恩院では4月18日より25日午前中までの8日間にわたり、「御忌大会」と称してご本堂（法然上人がご本尊なので、御影堂と呼ばれています）にて日中・逮夜の法要が勤められます。各法要では「日中唱導師」「逮夜導師」が各教区より選出され、「声明」や「笏念仏」などこの法要の時に特別に行うお勤めやお作法によって、法然上人のご遺徳を偲びます。また、法要以外には国宝である「三門」の楼上内にて夜通し行われる「ミッドナイト念仏 in 御忌」や「吉水講詠唱奉納大会」などの行事が行われます。

大本山 増上寺では4月2日から7日まで知恩院同様に「御忌大会」と称してこの御忌会を勤めます。増上寺では日中法要の前に大門より大殿（増上寺のご本堂）前まで200名から300名の練行列を行い、大殿前にて「庭儀式」と呼ばれる、法要の無事円成を祈る儀式を行います。境内いっぱいの参拝者の前で庭儀式の作法を行う唱導師は各教区より選出され、僧として一世一代の晴れ舞台を勤めます。法要は「声明法要」「引声阿弥陀経法要」「浄土法事讃法要」「音楽法要」などの特別な法要を勤めます。また舞楽（雅楽にあわせて舞うという演奏様式）・詠唱・「双盤念仏」の奉納をはじめ、経蔵や寺所蔵の宝物の公開など様々な行事が行われます。

知恩院

両本山でそれぞれ勤められる「声明」は、知恩院が「祖山流」、増上寺が「縁山流」と呼ばれています。それぞれ節まわしは異なり、祖山は厳かで雅な、また縁山は華やかな響きの声明となっています。

本山の御忌会は、お寺の団体参拝旅行でお参りすることもありますが、浄土宗の信徒として一度はお参りしていただきたい大法要です。

増上寺

ブラジルのおはなし②

海外での浄土宗の活動について
～ブラジルならではの信仰～

佐古（さこ）　康祥（こうしょう）

前回は厳しい生活の中での仏教との関わりについて書きましたが、そのように厳しい生活を送りさらに異国の中で戦争を経験し、苦労の中誠実に過ごしていた日系人はブラジルにおいて社会的地位を得ていきます、その中私たち浄土宗は1953年に社会事業家でもありました長谷川良信という僧侶が、初代南米開教区総監として浄土宗より派遣されて、サンパウロに日伯寺（ブラジルは漢字で伯剌西爾と書き伯国と書かれる）というお寺を建立したことで始まります。当時63歳という年齢で8か月間ブラジル全州を自分の足で歩いて実際に日系社会を見て歩いてから、お寺だけでなく日本での社会事業家としての経験を使い、お寺と共に日本語学校、知的障害児施設の設置を行い現在でもその施設は続いているのと同時に、後に続く2代目総監は養老施設を設置し現在まで福祉活動に力を入れております。

その様な状況の中、私もブラジルに行ったわけですが、きっかけは軽い気持ちでした。京都の佛教大学で浄土宗教師の資格を取った後、ジャズのドラムを演奏する音楽活動をしながら京都で数年生活をしていたのですが、現在の三代目南米開教区総監と偶然会う機会があり、その3か月後にはブラジルにいました。正直特に予備知識無しでバタバタ行ったので、今思うと我ながらよく行ったなと感じています。

さて、ブラジルといいますとリオデジャネイロにある有名な巨大なキリスト像で分かるようにキリスト教の信仰が篤い国です。また、日本と違い「檀家制度」という考えが馴染んでいないので日本と違うところがあります。例えば私が葬儀に呼ばれ、会場に到着したときこれからお葬式を挙げる故人に神父様がお祈りを捧げていました。故人の息子様に後から伺ったところ「亡くなったお父さんは仏教の信者だからお坊さんを呼んだ、しかし私はキリスト教を信じるから神父さんを呼んだ」とのこと、また他のブラジルに小さい時来た日本出身のお爺さんは「日本の宗教だから神道は大事だ、ご先祖様の宗教だから仏教は大事だ、今住んでいる国の宗教だからキリスト教は大事だ」と仰っていました。日本と違い宗教は個人単位のものであると捉え、自分の宗教を大切にすると同時に他者の宗教も尊重する。考えが違う人を排除することは確かに楽かもしれません、しかしながらブラジルの様な移民の国だからこそ、信仰する宗教・文化が違っても尊重しあえる、その姿に見習うべき点は多いかと思います。

サンパウロ日伯寺

《清璋寺だより》

9月20日の日曜日、秋のお彼岸法要を清璋寺本堂にて午前・午後の2回に分けて換気や座席の間隔を広く取るなどのコロナ対策を取りつつ行いました。

真西に太陽が沈む秋分の日、近所の子どもから自然と夕日が綺麗だという言葉が発せられました。極楽浄土のあります西の彼方を純粋な気持ちで美しいと感じることのできるこのお彼岸の期間、参列の方々と一緒に西方極楽浄土に思いを馳せお勤めを執り行うことができました。

合掌

（住職　太田光顯）

《納骨堂のご案内》

様々なタイプの納骨壇があります。どうぞ、是非ご見学にお越しください。

札幌市手稲区西宮の沢5条1丁目19-35　清璋寺

TEL 011-668-5110

しろいし幼稚園から

実りの秋です。今年は園庭の梨の木が沢山実をつけ、子どもたちは日々大きくなっていく梨を観察しながら、収穫する日を心待ちにしています。

新型コロナウイルスの感染者数も急増することなく、新しい生活様式を取り入れながらも子どもたちは、“いつもの幼稚園”を取り戻してきています。1学期はほとんど行う事ができなかった行事も2学期は形を変えながらも実施できるようになりました。

そのような中、年長組さんは、江別の農家さんの所へじゃがいも掘り遠足に行ってきました。軍手を身に着け、収穫したお芋を入れるビニール袋携えて準備万端！じゃがいもは、取り放題ですが、一つだけ条件が…。それは、自分でお家に持ち帰れる量を収穫するという事。

持てる量を考えながらも、「お父さんやお母さんに食べてもらいたい！」「お芋を沢山食べたい！」という気持ちから、ビニール袋にどんどんお芋を詰めていく子どもたちの様子が見られました。「重い！」「持てない！」と言いながらも、ビニール袋を抱えて歩く子どもたちの姿はとても頼もしかったです。なかには、途中であきらめてお芋の量を泣く泣く減らす子もいましたが、収穫する事の大変さを実感し農家さんへの感謝の気持ちも芽生えたようでした。沢山収穫したお芋は、この日お留守番をしていた年中組さんにも食べさせてあげたい！と、翌週にクラスごとに焼き芋をしてふるまっていましたよ。このように、自分たちの体験の中で得た喜びや嬉しさをお裾分けしたいという気持ちも育っています。

しろいし幼稚園では、このように日々の園生活の中で感謝の気持ちや思いやりの気持ちが育つよう、保育を行っています。令和3年度の園児募集については、11月2日が願書受付となっておりますので、お近くに入園希望の方がいらっしゃいましたらぜひ幼稚園までご連絡ください。

令和３年度新入園児募集

年少児（平成29年４月２日～平成30年４月１日生まれ）　56名
年中児（平成28年４月２日～平成29年４月１日生まれ）　15名

願書配布　10月15日（木）　**願書受付**　11月２日（月）

※今年度から、願書配布方法が変更しております。詳しくは、幼稚園までお問合せください。

学校法人新善光寺学園　しろいし幼稚園
〒003-0028　札幌市白石区平和通１丁目南６番16号　URL siroisi-pippara.ed.jp
TEL 011-861-4426　FAX 011-866-0707　E-mail siroisi.-pippara@cyber.ocn.ne.jp

—お檀家タウンページ ～ともいき訪問⑲—

北郷ゴルフセンター

北郷の地で 40 年続く地元に根づいたゴルフ練習場

今回は厚別通に面しているゴルフ練習場「北郷ゴルフセンター」さんへ取材に行き、社長の田中敏彦さんにお話を伺いました。隣接のお宅へは毎月お参りに伺っていますが、実際に練習場へ行くのは今回が初めてでした。

元々は家業として網走で漁業をおこなっていましたが、日ロ漁業問題の関係で廃業し、次の事業を模索していたところ、この北郷の土地が空いていてゴルフ練習場を開業されたということです。ちょうど今年、記念すべき開業 40 周年を迎えられております。

ロビーは広くて明るく、1 階と 2 階合わせて 68 席の練習台からは“カキン！”とボールを打つ音が鳴り響いていました。来場者の割合としては、午前中はリタイアされた方、お昼を過ぎると若い方が増え、最近では女性の方もお一人で来られる方が多いということです。

「青年会議所の神輿の委員会に入っていて夜中まで神輿の準備し、その後、朝 3 時半に起きるので、若い頃はそれが大変でした。」と青春時代の苦労話も気さくに話してくださいました。

景気に左右されやすい業界のため、バブル最盛期には毎日朝から待ちが掛かる状態で、崩壊後は一気に 3 分の 1 くらいに来場者が減るなどの浮き沈みがあったそうです。

このコロナ禍においては、アウトドアの練習場ということもあり、影響はそこまでないということです。システム・料金など詳しくはホームページ又はお電話にてお問合せください。

〒 003-0834
札幌市白石区北郷 4 条 3 丁目 3-52
TEL　011-872-3331
URL　http://www.kitago-gc.com

慈啓会から

慈啓会老人保健施設の役割とご紹介

慈啓会老人保健施設　全景

「老人保健施設」は、長期入院をしていた方が、退院して家庭に戻るまでの間利用したり、在宅生活を送る中で、低下してきた身体機能のリハビリを集中的に行うために利用したりする在宅復帰を目指す介護保険が適用される公的な施設です。特別養護老人ホームと異なる点は、①終の棲家ではなく、入所期間は、基本的に3～6か月程度です。②要介護1～5の方が入所できます（特養は要介護3～5）。③24時間看護師が常駐しているため痰吸引等の医療ケアが必要な方の受け入れが可能です。

4人部屋

在宅復帰支援を行うために、当施設の医師、看護、リハビリ、介護、管理栄養士、施設ケアマネ等スタッフが本人・家族と一緒に在宅復帰のために必要なリハビリ計画と生活全体のケアプランを作成します。退所が近づくと家屋調査を行い、在宅生活を支える居宅ケアマネ等と連携し在宅生活の課題を検討します。

自宅に戻ることが困難な場合は、身体状況に応じた在宅に代わる施設をご紹介します。散歩や通院が困難となる冬期間入所し、暖かい期間は、週2～3回の通所リハビリや数日間のショートステイを利用しながら在宅生活を継続されている方も多いです。入所や通所リハビリ等をご希望の場合は、気軽にご相談ください。

集団レク

言語聴覚士による言語訓練

作業療法士による手指の訓練

理学療法士による歩行訓練

理学療法士による関節可動域訓練

訓練中の会話がなによりの楽しみ

写真は理学療法士・作業療法士・言語聴覚士による訓練場面ですが、現在は
コロナ感染予防のためマスクを着用して居室やフロアで施術しています

【お問い合わせ先】慈啓会老人保健施設
札幌市中央区旭ヶ丘5丁目6-48　TEL 011-520-8085

支援相談員：山本・下水流（しもずる）・根岸

慈啓会総合相談室のご案内

介護についてご心配やお困りのことがあればお気軽にご相談ください。
専門スタッフがご相談に応じます。（相談無料）

フリーダイヤル **0120-83-8291**
受付時間：8：45 ～ 17：00（土日祝は除く）
E メール：info-jk@sapporojikeikai.or.jo

お仏像を紹介します①

御本尊　阿弥陀如来さま

前号までは額縁や掛け軸を紹介していましたが、今号からは仏像シリーズに突入いたします。

当山の御本尊は、秘仏である一光三尊阿弥陀如来さまです。図１のように、本堂の須弥壇にあるお厨子の中におられます。そのお姿は、信州・長野の善光寺如来さまと同じで、一つの光背のなかに阿弥陀さまと観音菩薩・勢至菩薩のお三方がおいでです。また、その光背には七体の化仏がおられます。さらに、お三方の足元の蓮台は、臼の形になっているのが特徴です（図２参照）。その秘仏が納められているお厨子の前に、お前立のような形式で坐像の阿弥陀さまをご安置しています。

図１

図２

北縁　なんでもＱ＆Ａ

いつもご投稿いただきありがとうございます。

本誌への感想を毎号くださる方もいて大変はげみになります。コロナ禍でお休みをしていた仏教講座（写経会）も再開し、コロナ禍前ほどのご参加はいただけない中にも少しずつ以前のような活動も新しい形で行えるようになってきました。お葉書での投書ももちろんですが、お寺へ来られた際にご質問いただいた内容もこちらで紹介させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

Q 最近身内のお葬式を経験したのですが、初七日の繰り上げ供養を葬儀の時におこなってもらいました。本来の初七日にはやはりお坊さんに来てもらった方がいいのでしょうか。

A お亡くなりになって数え49日間（ご命日を一日目と数える方法）を「中陰」といい、中陰の期間は七日毎に計七回、亡き人のご供養をするという習慣があります。葬儀の時に行う繰り上げの回向（供養）は便宜上のもので、やはり真心を込めた供養を行うなら七日毎に回向をされることをおすすめいたします。しかし、何かと忙しい現代では毎週親族が参集し亡き人への回向を行うことが困難でありましょうし、親族の方も昔と違い、遠方で生活をされている状況があることもめずらしくありません。そうなってくると、やはり大切なのは気持ちで、たとえ親族で参集できなくてもそれぞれの立場で出来得る供養を亡き人に手向けることが肝要なことになります。浄土宗では「お念仏」という、どなたにでも勤められる追善供養の方法がありますので是非お勤めいただきたいものです。

Q 百箇日という日がありますが、供養の機会を設けた方がよろしいのですか。

A 百箇日は「卒哭忌」ともいい、読んで字の通り「嘆き悲しむことをこの日をもって卒業しましょう」という意義のご縁日とされています。供養をするための縁日はそれぞれ意味がありますので、もちろん勤めていただくにこしたことはありません。

最近ではこの百箇日を勤める場合、49日法要のような生前の縁者に参集してもらい、それなりの規模で行うというよりは親族等内輪のみで行うことが多いようです。

札幌圏では毎月の命日に僧侶に読経してもらう「月参り」という習慣があり、「月参りにお経をもらっているから…」という理由で百箇日を勤めない家も多いようです。

何かと簡略化の流れがあることは否めませんが、昔から伝わる習慣にはそれぞれ意味がありますので、供養の是非に関してはその本来の意味を踏まえてご判断いただければと思います。

〈メディア掲載〉

8月25日の北海道新聞朝刊に松尾一志師のインタビュー記事が掲載されました。

松尾師は12歳で僧侶になり、その10代の頃を大好きな“味の三平”さんのラーメンの思い出と共に振り返った記事でした。

庶民の味・ラーメン
思い出の食べ物
栄養価高め苦境下

8月14日のHBC（北海道放送）「今日ドキッ！！」内で、“コロナの中でのお盆”特集として新善光寺の取り組みが紹介されました。実際にお盆参りの様子も撮影されました。

ご協力いただきました小村様には、この場を借りて御礼申し上げます。

予告

HTB（北海道テレビ放送）「イチオシ！！」で、各地の神社仏閣をスタート地点に街歩きをする“幸せ散歩”コーナーに新善光寺が登場します。2回目の登場になりますが、今回はどうなっていることやら。どうぞ、ご覧ください。

放送日　10月12日（月）15：45～

編集後記

今号もお読みいただきありがとうございます。
さて3月以降、オンラインでの会議がほとんどになってきています。どこからでも参加できるという点は非常に便利である一方、実際に会うことが無くなり若干の寂しさもあります。ネットとリアルとどのように付き合っていくかが大事になりますね。その良い塩梅というものを模索している今日この頃です。
次号は1月発行の予定です。　（真海）

※新善光寺の日々の情報は各種SNSにて公開しております。どうぞ、そちらもご覧ください。そしてこの「ほくえん」のご感想もお待ちしております。

新善光寺　検索

新善光寺寺報
Hokuen 44
北縁

発行／2020年10月発行
発行責任者／新善光寺住職　太田眞琴

〒064-0806 札幌市中央区南6条西1丁目　［TEL］011-511-0262　［FAX］011-511-4706
［ホームページ］http://s-zenkoj.com　［Eメール］s-zenkoj@crux.ocn.ne.jp